

## 8 教育再生プロジェクト

～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～



子どもたち一人ひとりが、学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材として育つとともに、県民誰もが生涯にわたる学びを通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができる教育県をめざします。

### アクション1

#### 学力・体力の向上と多様な学習機会の提供

子どもたちの学力や体力を向上させるとともに、一人ひとりの個性に合った多様な学習機会を提供します。

### アクション2

#### 地域に開かれた信頼される学校づくり

コミュニティスクールなど、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。

### アクション3

#### 農林業体験など体験活動の推進

子どもたちの社会性や自主性を育むため、小・中・高等学校で農林業体験、福祉体験、就業体験など様々な体験活動を推進します。

### アクション4

#### 情報活用能力、英語コミュニケーション能力の向上

時代の変化に対応できる人材を育成するため、子どもたちの情報活用能力や英語コミュニケーション能力の向上に取り組みます。

### アクション5

#### 高等教育全体の振興

地域社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するため、県内の高等教育全体を振興するとともに、県立4年制大学を設置します。

### アクション6

#### 生涯にわたる学びの環境整備

生涯にわたる学びや学び直しができる環境整備を進めます。

# (1) 学力・体力の向上と 多様な学習機会の提供

～一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育の実現～



## 【取組のポイント】

- 子ども一人ひとりの個性に合ったきめ細やかな指導を実施できる体制づくり
- 幼児期からの運動遊びを取り入れた「長野県版運動プログラム」の普及

## 現状と課題

中3時の学力が全国平均を下回る (右表)

運動をする子としない子の二極化

中学生女子の総運動時間 (H29)

1日1時間以上 : 54.9%

週1時間未満 : 23.6%

3年後

全国学力・学習状況調査における  
全国平均正答率との差 (単位: %)

	国語A	国語B	算数・ 数学A	算数・ 数学B
H26年度調査の 小学6年生	0	+1	+1	+1
H29年度調査の 中学3年生	+1	0	-1	0

(出典: 文部科学省)

## 主な取組

- 小中学校30人規模学級 (35人以下学級) の全学年実施 (H25～)
- 「長野県版運動プログラム」の開発・普及 (H21.4～)
- LD等通級指導教室の増設など、特別支援教育の充実
- 「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針(案)」公表 (H30.3)

## 成果

- 「授業がよく分かる」と答える児童生徒 (小6、中3) の割合の向上  
H24年度: 73.7% → H29年度: **76.0%**
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点の全国順位の向上  
H24年度: 全国31位 → H29年度: 全国**23**位
- LD等通級指導教室の利用者の増  
H24年度: 138人 → H29年度: **526**人(約3.8倍)

## (2) 地域に開かれた信頼される学校づくり

～学校・家庭・地域が連携し子どもたちの心豊かな学びを支援～



### 【取組のポイント】

- 信州型コミュニティスクールによる地域に開かれた学校づくりを推進
- 不登校、いじめ等の悩みを抱える児童生徒に寄り添う支援体制の充実
- 児童生徒による主体的ないじめ防止の取組を推進

### 現状と課題

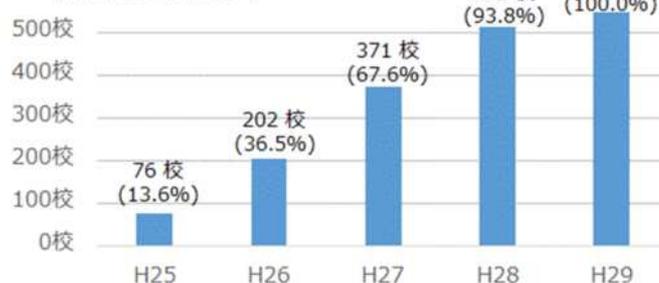
信州型コミュニティスクール実施学校は順調に拡大

不登校児童生徒在籍比率が上昇傾向

小学生 0.33% (H24) → **0.48%** (H28)

中学生 2.60% (H24) → **2.79%** (H28)

信州型コミュニティスクール実施学校数の推移  
(長野県教育委員会調べ)



### 主な取組

- 「信州型コミュニティスクール」の設置推進
- 学校生活相談センターの設置、利用促進 (H27.4～)
- スクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実 (H28～)
- 子どもによる主体的かつ自主的ないじめ防止の取組を促進

### 成果

- 信州型コミュニティスクールを全学校で実施 (実施率100%を達成) (H29)  
(参考) : 登録ボランティア数 32,160人 (H29)
- 学校生活相談センターの相談件数 **693件**(延べ相談回数**1021回**)(H29)
- スクールソーシャルワーカーの配置時間を約3倍に大幅拡充  
4,426時間 (H27)  
→ **13,321時間** (H29)



# (3) 農林業体験など体験活動の推進

～様々な体験活動を通じて社会性や自主性を育成～



## 【取組のポイント】

- 社会体験・職業体験活動など、体験を通じた学びを推進
- 地域を理解しふるさとへの誇りや愛着を育む「信州学」を推進

## 現状と課題

「就きたい仕事がイメージできる」と答えた高校1年生 **68.4%**

若者の社会的・職業的自立と地域への定着が必要

「就きたい仕事がイメージできる」と答えた高校1年生の割合 (単位: %)



(出典: 高等学校学力実態・意識調査)

## 主な取組

- **子どもたちの発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進**  
プラットフォームを活用したキャリア教育の充実
- **学びと働きを連携させた新たな人材育成モデルの構築 (H28～)**  
成長産業・基幹産業における人材育成  
地域の可能性を再発見する郷就人材育成
- **「信州学」の推進 (H27.1～)**  
各校で地域の特性を踏まえて工夫した取組実施  
「信州学」ホームページの充実と情報発信

## 成果

- **農林業・就業体験活動等の実施率向上**  
中学校: 職場体験学習実施率 H29:100%  
高校: 農林業等就業体験活動を実施した生徒の割合  
H24:52.2% → H29:100%
- **モデル実施校卒業者の地元就職率 H27年比平均7.25ポイントアップ (H29年度)**
- **すべての県立高校で「信州学」を実施 (H29年度)**  
成果発表の場として「信州学サミット2017」を開催  
学校を超えた学びの場「信州学アソシエーション活動」を設置

# (4) 情報活用能力、 英語コミュニケーション能力の向上

～時代の変化に対応できる人材の育成～



H28 未来塾ながの in the Philippines

## 【取組のポイント】

- ICTを活用した授業の実施のための体制づくり
- 英語指導教員の研修の充実や留学支援

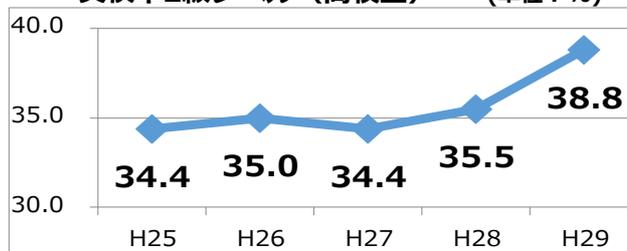
## 現状と課題

問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用できる能力が必要

グローバル教育の充実によるグローバル人材の育成が必要

英語コミュニケーション能力水準は中高生ともに向上してきているが、「読む」力に比べて「話す・書く」力に課題がある

英語コミュニケーション能力水準の向上  
英検準2級レベル（高校生）（単位：%）



(出典：英語教育実施状況調査)

## 主な取組

- 教員のICT、英語指導力研修の推進
  - ・ 信州大学と連携した研修プログラムの策定
  - ・ CET（英語中核教員）の養成
- ICTを活用した確かな学力の育成を推進
- 高校におけるグローバル教育の充実
  - ・ スーパーグローバルハイスクール（SGH）  
長野高校（H26）、上田高校（H27）
  - ・ 高校生の海外留学への補助

## 成果

- 教員ICT活用指導力の向上  
授業中にICTを活用して指導する能力のある教員  
H23：60.2% → H28：**67.8%**  
全国水準75.0%(H28)へ更に取組を進める
- 機器の導入状況  
すべての普通教室に電子黒板を設置するとともに、タブレットPCを1クラス分整備した県立高校の数  
H27：0校 → H29：**14校**
- 英語コミュニケーション能力水準の向上  
英検準2級レベル（高校生）  
H23：30.0% → H29：**38.8%**  
英検3級レベル（中学生）  
H23：19.8% → H29：**37.0%**

# (5) 高等教育全体の振興

～郷学郷就県づくり～



長野県立大学 三輪キャンパスメインエントランス

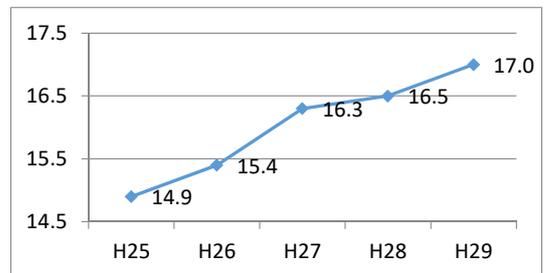
## 【取組のポイント】

- 新たな県立4年制大学の設置
- 大学間の連携強化等による県内高等教育全体の振興
- 県内大学の魅力発信による学生確保

## 現状と課題

大学進学率 **42.2%** (全国31位)  
 県内大学の収容力 **17.0%** (全国45位)  
 県外大学への流出率 **83.9%** (全国ワースト6位)

県内大学収容力の推移



## 主な取組

### ○ 「信州高等教育支援センター」を設置し 長野県高等教育振興基本方針を策定

- ・ 松本大学教育学部並びに清泉女学院大学及び長野保健医療大学看護学部設置の支援
- ・ 長野大学、諏訪東京理科大学の公立化を支援

### ○ 産学官の連携による 県内への人材定着の取組の推進

### ○ 信州で学ぶ魅力を県内外へ発信

### ○ 長野県立大学の開学 (H30.4)

- ・ グローバルマネジメント学部 (定員170人)
- ・ 健康発達学部 (定員70人)

## 成果

### ○ 県内大学の志願者数の増加

年度	志願者数	志願倍率
H28	12,266人	3.6倍
H29	15,592人	4.5倍
H30	15,683人	4.2倍

### ○ 産学官連携でインターンシップのマッチングを実施

H29 : 37名が参加

### ○ 県内企業の海外事業所でのインターンシップへの参加を支援

H29 : 17名



# (6) 生涯にわたる学びの環境整備

～生涯を通じた学びとその成果を社会に生かす環境づくり～



## 【取組のポイント】

- 公民館組織の力量を高める生涯学習推進センターの研修・相談機能の強化
- 県立長野図書館が中核となり、各市町村の図書館などと共に「情報」と「人」とをつなぐ新しい図書館づくりを推進

## 現状と課題

地域課題を解決する公民館活動の充実に向け、公民館主事の確保・育成が必要

県内の公共図書館の多くが情報のデジタル化に対応できていない

市町村が生涯学習推進センターに開設を希望する講座内容  
(H27 長野県教育委員会調べ)



## 主な取組

- 「公民館支援専門アドバイザー」による市町村への助言活動(H28.4～)
- 公民館初任者向け講座の新設 (H28.4～)
- 「地域の情報拠点」としての図書館改革を推進 (H27～)
  - 図書館連携に向けたネットワーク体制の検討
  - ICT機器・データベース資料の利用環境整備



## 成果

- 公民館での学級・講座参加者数  
H28:207,769人 → H29: 210,447人
- 県立長野図書館が県内86館の図書館を訪問し、意見交換を実施(H27～H29)
- 民間と力を合わせて、本とデジタルのハイブリッド図書館モデル空間「UCDL」(ウチデル)を整備 (H29)  
 (株)内田洋行とネーミング・ライツ・パートナー協定を締結。ICT機器等を有効に活用しながら、ワークショップや情報発信ができるスペースを設置。

## 8 教育再生プロジェクト

### 達成目標の進捗状況

(総括マネージャー 教育長)

進捗区分 ●「A」：目標値以上 ●「B」：80%以上100%未満の進捗  
 ●「C」：80%未満 ●「実績値なし」：H29年度実績値が把握できない  
 進捗割合=(実績値-基準値)/(目標値-基準値) ・「目安値」：H25～28年の目標値

学校満足度 (小学校)	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		90.7	91.0	91.3	91.6	<b>92.0</b>
	実績値		90.4	90.7	90.7	90.0	89.7	<b>89.4</b>
	進捗 区分			A	C	C	C	C
(進捗状況の分析) 児童の実態を踏まえた、きめ細かな指導や児童がわかる授業を目指した授業改善が進んできているものの、「学校へ行くのが楽しい」と答える児童の割合は伸び悩み、目標には至りませんでした。				(今後の取組) ・指導主事によるゾーン訪問、単元訪問を通して「わかる授業づくり」を推進。 ・信州型ユニバーサルデザイン構築事業を通して、多様性を包み込むとともに、社会で生きて働く資質・能力の育成を子どもが実感できるようにする。				
学校満足度 (中学校)	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		86.5	87.3	88.2	89.1	<b>90.0</b>
	実績値		85.7	86.6	87.0	87.0	89.7	<b>87.2</b>
	進捗 区分			A	C	C	A	C
(進捗状況の分析) 生徒の実態を踏まえた、きめ細かな指導や生徒がわかる授業を目指した授業改善が進んできているものの、「学校へ行くのが楽しい」と答える生徒の割合は伸び悩み、目標には至りませんでした。				(今後の取組) ・指導主事によるゾーン訪問、単元訪問を通して「わかる授業づくり」を推進。 ・信州型ユニバーサルデザイン構築事業を通して、多様性を包み込むとともに、社会で生きて働く資質・能力の育成を子どもが実感できるようにする。				
学校満足度 (高等学校)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		76.2	77.2	78.1	79.1	<b>80.0</b>
	実績値		75.3	76.5	77.3	78.3	79.2	<b>79.5</b>
	進捗 区分			A	A	A	A	B
(進捗状況の分析) 目標値には、達しなかったものの、各高校での「探究的な学び」の導入、授業改善は、進展しており、新しい学習指導要領の実施に向けて、さらに、カリキュラム・マネジメントを進めています。				(今後の取組) ・生徒が高校生活に充実感を得られるよう学びのあり方を改善し、探究的な学びを推進する				

## 8 教育再生プロジェクト

「基礎的・基本的な 内容の定着度」が全国 平均より高い児童生徒 の割合 (小学校)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		62.4	63.1	63.7	64.4	<b>65.0</b>
	実績値		61.8	64.7	65.3	62.6	64.4	<b>64.5</b>
	進捗 区分			A	A	C	A	B
(進捗状況の分析) 一人ひとりの実態を把握し、それに応じた支援や補充学習を行うなど、指導と評価を一体化した取組が十分にできていないことや、授業において「授業がもっとよくなる3観点」が意識されつつあるものの、形ばかりになってしまい子どもが主体となっていない授業があることなどが原因と考えられます。				(今後の取組) ・今後は、教育課程研究協議会や教育事務所が主催する研究主任会議において授業改善に向けたPDCAサイクルの具体的な例を紹介するなどして、各校において指導改善が進められるような支援をしていく。				
「基礎的・基本的な 内容の定着度」が全国 平均より高い児童生徒 の割合 (中学校)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		57.2	57.9	58.6	59.3	<b>60.0</b>
	実績値		56.5	54.5	58.1	55.5	54.2	<b>56.8</b>
	進捗 区分			C	A	C	C	C
(進捗状況の分析) 一人ひとりの実態を把握し、それに応じた支援や補充学習を行うなど、指導と評価を一体化した取組が十分にできていないことや、授業において「授業がもっとよくなる3観点」が意識されつつあるものの、形ばかりになってしまい子どもが主体となっていない授業があることなどが原因と考えられます。				(今後の取組) ・今後は、教育課程研究協議会や教育事務所が主催する研究主任会議において授業改善に向けたPDCAサイクルの具体的な例を紹介するなどして、各校において指導改善が進められるような支援をしていく。				
「学習したことを実生活の 場面に活用する力」が全国平均より 高い児童生徒の割合 (小学校)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		58.4	58.8	59.2	59.6	<b>60.0</b>
	実績値		58.0	59.7	59.5	55.9	57.1	<b>54.5</b>
	進捗 区分			A	A	C	C	C
(進捗状況の分析) 目標に至らなかったのは、まとまった文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて文章化したりする力が十分についていないことが要因と考えられます。				(今後の取組) ・指導主事の学校訪問支援や研修などの機会をとらえて、児童生徒に付ける力を単元の中で整理し、バランスよく配置したうえで授業に臨むなど、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりについて一層周知していく。				

## 8 教育再生プロジェクト

「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合 (中学校)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		54.2	54.7	55.1	55.6	56.0
	実績値		53.8	52.3	54.7	49.2	52.2	52.8
	進捗区分			C	A	C	C	C
(進捗状況の分析) 目標に至らなかったのは、まとまった文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて文章化したりする力が十分についていないことが要因と考えられます。				(今後の取組) ・指導主事の学校訪問支援や研修などの機会をとらえて、児童生徒に付ける力を単元の中で整理し、バランスよく配置したうえで授業に臨むなど、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりについて一層周知していく。				

全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点の全国順位 (小・中学校)	年度	単位	基準値(H22)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	位		29	27	25	22	19
	実績値		31	29	27	19	23	23
	進捗区分			A	A	A	B	C
(進捗状況の分析) 体力合計点は、本調査開始以来の最高得点を記録したものの、全国平均も最高得点を記録するなど伸び率が高かったことから、全国順位は、昨年同様23位で目標を達成できませんでした。 カテゴリー別で見ると男子は小・中学校ともに全国平均を上回り、小学校男子が過去最高得点となりました。女子は、小・中学校共に全国平均を下回りましたが、ともに過去最高得点となりました。				(今後の取組) ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において「運動が好き」、「体育の授業が楽しい」と肯定的な回答をしている児童生徒の割合が、小中学校男女のすべてにおいて全国平均を上回っていることを強みに、引き続き長野県版運動プログラムの普及・定着事業を推進し、運動の楽しさや生活における運動の必要性が実感できる体育の授業づくりを進めることで、体力の向上を図ります。				

## 8 教育再生プロジェクト

信州型コミュニティスクールの実施割合 (小・中学校)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		3.0	30.0	50.0	75.0	100.0
	実績値		0 (21.0)	13.6	36.5	67.6	93.8	100.0
	進捗区分			A	A	A	A	A
(進捗状況の分析) 市町村への“信州型CSアドバイザー”の派遣や各地域において学校関係者・地域住民・関係団体が事例発表や意見交換する学社連携意見交換会等による研修などの取組により、制度の理解が進み、目標を達成できました。  *CS=コミュニティスクール				(今後の取組) ・信州型コミュニティスクールのこれまでの成果や課題を踏まえ、地域学校協働活動など文部科学省の施策とともにさらに取組の充実を図る。				

就業体験活動を実施した生徒数の割合 (高校生)	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		60.0	70.0	80.0	90.0	100.0
	実績値		52.2	60.4	71.7	80.2	90.1	100.0
	進捗区分			A	A	A	A	A
(進捗状況の分析) ・各学校が地域の企業や施設等の協力を得て、事前・事後学習を含めた就業体験活動を実施しており、年々実施回数が増加して目標を達成できました。				(今後の取組) ・就業体験活動を通して生徒が学校での学びと社会との接続を意識できるよう、地域や企業と連携したキャリア教育を支援する				

## 8 教育再生プロジェクト

英語コミュニケーション能力水準 (英語検定3級レベル (中学生))	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		26.0	29.0	33.0	36.0	<b>40.0</b>
	実績値		19.8	28.2	33.2	33.7	31.0	<b>37.0</b> (全国29位)
	進捗 区分			A	A	A	C	<b>B</b>
(進捗状況の分析) 4技能(「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」)をバ ランスよく指導するには課題があるものの、授業における教員の英語の使用 状況の向上や言語活動の増加など授業改善の成果により、実績値は上がりま した。				(今後の取組) ・英語指導力向上研修を通して4技能型アセスメントの検定に対応する力をつ ける英語授業改善を進める				

英語コミュニケーション能力水準 (英語検定準2級レベ ル(高校生))	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目標値 (目安値)	%		33.0	35.0	36.0	38.0	<b>40.0</b>
	実績値		30.0	34.4	35.0	34.4	35.5	<b>38.8</b> (全国23位)
	進捗 区分			A	A	C	C	<b>B</b>
(進捗状況の分析) 4技能(「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」)をバ ランスよく指導するには課題があるものの、授業における教員の英語の使用 状況の向上や言語活動の増加など授業改善の成果により、実績値は上がりま した。				(今後の取組) ・英語指導力向上研修等を通して、生徒に4技能型の検定に対応する力をつ けられるように英語授業改善を進める				